

第4節 天敵の導入ならびに配布事業

1. 野そチフス菌

昭和9年に10町村18地区734. 5 ha、翌10年には5町村167 haを対象に配布を行い、野その防除を実施した。しかし、成果は確認するに至らなかった。

2. ベダリアテントウムシ

イセリヤカイガラムシは、大正11年板野郡下で発生を認め、その後2～3年で柑橘栽培地に蔓延した。このため、天敵ベダリアテントウムシ放飼による防除 が試みられることになり、大正14年から飼育配付が始められ、昭和15年まで広く県下に配付し放飼された。この間県下にゆきわたるようになり、イセリヤカ イガラムシによる被害はほとんどみられなくなった。各年の配付頭数および地域は第12表のとおりである。

第 12 表 各年次におけるベダリアテントウムシの配付頭数と配付地域

年 次	配付頭数	配 付 市 郡 名	配付先数
大正 15 年	1,350	勝浦, 那賀, 海部, 板野, 名 東	—
昭和 2 年	2,710	那賀, 海部, 板野, 勝浦, 名東, 麻植, 三好	25
3	3,483	那賀, 海部, 板野, 勝浦, 名東, 名西, 島根県農試 100 頭	26
4	3,170	那賀, 海部, 勝浦, 板野, 名 東	32
5	2,201	那賀, 海部, 勝浦, 徳島・名東, 名西, 板野, 三好	26
6	2,478	徳島, 勝浦, 那賀, 海部, 名東, 名西, 板野, 麻植	27
7	3,104	徳島, 名東, 勝浦, 那賀, 海部, 名西, 麻植, 阿波, 美馬, 三好	54
8	1,090	徳島, 名東, 勝浦, 那賀, 板野	22
9	1,440	徳島, 名東, 勝浦, 海部, 那賀, 板野, 名西, 麻植, 阿波, 三好	34
10	1,058	徳島, 名東, 勝浦, 那賀, 海部, 板野, 名西	21
11	438	勝浦, 那賀, 海部, 板野, 麻植	16
12	958	徳島, 名東, 勝浦, 那賀, 海部, 板野, 名西, 麻植, 美馬, 三好	28
13	105	板野, 那賀, 海部	3
14	1,140	徳島, 那賀, 海部, 板野	10
15	455	板野, 勝浦, 那賀, 徳島	8

3. ルビーアカヤドリコバチ

昭和26～29年に、これまでで防除が困難であったルビーロウカイガラムシの有力な天敵ルビーアカヤドリコバチを九州から導入することになり導入費が計上 された。すなわち、ルビーアカヤドリコバチ飼育用ガラス室が作られ、昭和26～29年の間毎年5月に、鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県に採集者を派遣し 採取したルビーロウカイガラムシから羽化したルビーアカヤドリコバチを配付した。放飼後は30%から最高76. 9%と高率な寄生がみられ定着が確認され、29年には、実害のある発生地はほとんどみられなくなり、大きな成果があった。配付市町村および配付した雌成虫の頭数を示すと第13表のとおりである。

第 13 表 各年次のルビーアカヤドリコバチ配付市町村と配付雌成虫の頭数

年	26	27	28	29	計
市町村名					
徳 島 市	621	4,134	1,777	1,412	7,944
小松島市	155	1,050	1,533	1,705	4,443
勝 浦 町 生比奈	525	3,803	965	228	5,521
〃 横 瀬	924	6,524	967	300	2,638
上 勝 町 高 銚	249	1,126	963	300	2,638
阿 南 市 加茂谷	286	1,856	528	—	2,670
〃 大 野	89	642	838	1,089	2,658
〃 桑 野	202	1,393	624	379	2,598
〃 長 生	—	195	—	—	195
佐那河内村	212	1,285	—	1,006	2,503
そ の 他	—	1,317	1,372	838	3,527
計	3,263	23,325	9,567	7,257	43,412

4. シルベストリコバチ

昭和25年11月高知県から導入し、ミカントゲコナジラミの発生地であった横瀬町(現勝浦町)、桑野町(現阿南市)、三岐田町(現由岐町)のミカン園 に、1地点約100頭を放飼した。横瀬町では翌26年3月再び高知県から導入放飼された。その結果26年6月には横瀬町で多数のシルベストリコバチの定着 が認められ、27年には、ミカントゲコナジラミによる実害はない程度に防除ができた。しかし、桑野町では寄生は認められるものの目立った効果は認められ ず、三岐田町では、かえって増加傾向がうかがわれ、このことは無秩序な農薬散布の影響であろうとした。

5. ジャガイモガトビコバチ

昭和35年にジャガイモガが県下に初発生したが、昭和40～41年に農林省神戸植物防疫所から、天敵ジャガイモガトビコバチの配付を受け、板野郡土成町 に10, 000ブルードを2回放飼した。44年からは農業試験場でジャガイモガトビコバチの飼育増殖を行い、44年板野郡土成町に22, 700ブルード、美馬郡脇町に4, 500ブルード、45年は、10～11月の間に板野郡土成町20, 000ブルード、美馬郡脇町10, 600ブルード、46年には、板野郡 土成町と上板町に62, 000ブルードを放飼した。しかし、放飼世代では寄生を認めたが定着はみられず、放飼による防除効果は明らかでなかった。配付事業 は47年で終了した。

(4) 新発見および新発生病害虫

植物防疫の一貫として侵入害虫の防止と早期発見早期防除に努めているが、徳島県で始めて発生を認めて命名した新発見病害虫、および県内では始めて発生が確認された新発生病害虫を第10表、第11表に示した。

第 10 表 本県で新発見した病虫害

病 害 虫 名	初発生年月	初 発 生 場 所	作 物 名	発 生 状 況
タケアツバ Rivula biatomea	昭和 30 年 8 月	阿南市福井町	モウソウダケ	昭和 30 年に 575ha,昭和 36 年に 873ha と大発生し,昭和 39,42 年にも多発生した。
シロウリ実腐れ Rhizoctonia sp.	昭和 38 年頃	藍住町	シロウリ	板野郡のシロウリ栽培地帯で広く発生した。
キュウリ緑斑 モザイク病 CGMMV	昭和 41 年 2 月	徳島市(八万町,国府町)那賀川町,鳴門市(大麻町)で同時発生	キュウリ	ハウスキュウリ栽培面積の 55%,48ha に発生,昭和 42 年は 1/10 に減少し,昭和 47 年には発生は見られなくなった。
ナス褐斑細菌病 Pseudomonas cichorii	昭和 43 年冬	藍住町, 鴨島町, 市場町(八幡)	ナ ス	ハウス栽培ナスの葉,花蕾,花梗を侵し,落葉,蕾の落下,生育抑制などをひき起こした。
コルディリーネ疫病 Phytophthora sp.	昭和 44 年 6 月	藍住町, 板野町, 徳島市(不動町)	コルディリーネ	栽培農家いずれにも発生,梅雨期に新葉や軸が腐敗。
イチゴ炭疽病 Colletotrichum fragariae	昭和 44 年 8 月	徳島市	イチ ゴ	発生当初,仮植床で 50%近い苗が枯死,その後,板野郡・鳴門市・阿波郡など 3ha に広がった。昭和 57 年現在では県下全域で少発生している。
ヒラタヒョウタンナガカメムシによる斑点米	昭和 45 年	羽ノ浦町	早期イネ	造成地の雑草で増殖し,隣接の早期水稻に移動し斑点米が発生した。
ナス軟腐病 Erwinia carotovora	昭和 45 年頃から	鴨島町	ナ ス	ハウスでは,12～3 月頃,露地では 6 月に発生がみられ,茎・葉柄が軟化腐敗した。
ハス褐斑病 Corynespora cassicola				昭和 46 年は主産地の数か所で発生,翌年は 530ha に広がり,葉の枯死により収量の減少や品質の低下を招いた。茎・葉の処理が行われて以後小発生となっている。
エンドウすそ枯病 Aphanomyces euteiches	昭和 48 年 10 月	阿波町 市場町	エンドウ	収穫期の 4 月に下葉黄化,枯上り減収,生産地全域で発生。
ホウレンソウ疫病 Phytophthora sp.	昭和 48 年 11 月	石井町 徳島市(不動町)	ホウレンソウ	生産地のとくに排水不良の地区で下葉の黄化を伴う生産不良株が目立った。
ニンニク葉枯病 Stemphylium botryosum	昭和 51 年 1 月	石井町	ニンニク	ハウスでは 1 月頃から,露地では 4 月から発生,生産地では広く葉枯れを生じた。
トマト黒斑細菌病 Pseudomonas viridiflava	昭和 51 年 1 月	石井町	トマト	葉身・葉柄・がく片および葉が発病し,しだいに生氣を失って垂れ下がり,枯死する株が目立った。
タマネギ葉枯れ Pleospora herbarum	昭和 51 年 4 月	石井町	タマネギ	葉に褐色不整形病斑を伴って枯れる症状が苗木,本圃で発生した。4 月には局地的に病斑部周辺の黄化が進み,葉が折れる被害が認められた。
スイカ台 ユウガオ根腐病 Rhizoctonia sp.	昭和 52 年 4 月	市場町	ユウガオ	4 月下旬大型トンネル早採り栽培のスイカが一部で枯死ははじめ,5 月には,5 圃場で発生した。日章レッドに接いユウガオに限られ発病した。
ニンジン斑点細菌病 Xanthomonas carotae	昭和 52 年 11 月	鴨島町	ニンジン	石井町・藍住町・上板町の各地区にも広がり,とくに新品種光輝 200 を導入したところで多発した。
ハナヤサイ入れ墨症状	昭和 53 年 11 月	徳島市, 藍住町	ハナヤサイ	花蕾の表面の一部にべと病菌による水浸状汚染を生じ,著しく品質を低下させた。発生は局部的に点々とみられた。

第 11 表 本県における新発生病害虫記録

病 害 虫 名	初発生年月	発 生 場 所	作 物 名	発 生 状 況
イセリヤカイガラムシ	大正 11 年	板野郡里浦村	ナツミカン	経路不明
ルビーロウカイガラムシ	大正 11 年 3 月	那賀郡椿村	ネーブル	静岡県から移入した仮植苗木で発生を認めた。
ヤマモモ白藻病	昭和 2 年 4 月	徳島市鮎喰町	ヤマモモ	本場の庭園樹で発生を認めた。
ゾラメゾウムシ	昭和 4 年 10 月	那賀郡大野村	ゾラメ	経路不明
小麦黄色斑点病	昭和 9 年 5 月		小 麦	5 月上旬に発生を始め,6 月上旬には,発生盛期となり県下全域で発生した。
カシノシマメイガ	昭和 9 年	名東郡八万村	米	倉庫内で発生が認められ,その後県内に分布していることが明らかになった。
ミカントゲコバジラミ	昭和 12 年 5 月	勝浦郡横瀬町	ミ カ ン	香川県・和歌山県から購入した苗木に発生を認めた。
小麦萎萎縮病	昭和 13 年 3 月	海部郡日和佐町	小 麦	
小麦条斑病	昭和 14 年 5 月	美馬郡都里村	小 麦	経路不明。昭和 24 年には板野郡松島町,昭和 25 年には久勝村で小発生した。
甘藷黒斑病	昭和 16 年 12 月	石井町高原	サツマイモ	経路不明。昭和 25 年に多発した。
甘藷黒星病	昭和 18 年 8 月	御所村, 高志村	サツマイモ	確認時では両村で少発生した。昭和 20 年には県下全域で発生した。
小麦腥黒穂病	昭和 19 年	重清村	小 麦	昭和 23 年には柿島村・鴨島町で小発生した。
クリタマバチ	昭和 23 年	阿讃山系	ク リ	昭和 25 年には県下全域で発生し,自生果で発生が多かった。
イネカラバエ	昭和 24 年 8 月下旬	多家良村	稲	農林 8 号に多発生した。
ヤサイゾウムシ	昭和 25 年 1 月 28 日	徳島市鮎喰町		1 月 28 日本場で初発生を確認し,同年中に県下全域で発生が確認された。
ジャガイモガ	昭和 35 年 10 月 7 日	鳴門市大毛島	タバコ	タバコ残幹で初発生を認めた発生面積 30ha,その後鳴門市全域で発生が認められた。昭和 39 年には始めてジャガイモで被害が発生した。
ハスモンヨトウ	昭和 36 年 8 月	鳴門市	サツマイモ	8 月にサツマイモで突発的に大発生し,周辺のダイコン,ハクサイ等にも大きな被害が発生した。昭和 37 年には多発生し,以後多目の発生となっている。
シロイチモジヨトウ	昭和 42 年 9 月	徳島市	ネ ギ	60ha に多発生し,昭和 46 年頃まで被害が発生したが,昭和 50 年代前半までは,ほとんど被害発生はなく,昭和 50 年代後半になって,再び被害が発生するようになった。
サツマイモかいよう病	昭和 48 年 7 月	鳴門市	サツマイモ	植付後,苗立枯れを生じ,収穫期には塊根にかいよう病斑を作り,品質が著しく低下した。発生面積は約 480ha であった。その後も発生が続き,土壌消毒が線虫対策を兼ねて実施されている。
ダイコン横縞症	昭和 48 年冬	鳴門市	ダイコン	砂地の冬ダイコン(大蔵)に広く発生し品質が著しく低下した。その後,夏ダイコンにもみられた。
ナスすすかび病	昭和 49 年 12 月	鴨島町	ナ ス	当初 3～4 ハウスの発生であったが,急速に広がり,3 年位の間に殆どどのハウスで認められるようになった。
オンシツコナジラミ	昭和 50 年 6 月	鳴門市	ホクシャ	愛知県より購入した鉢物で発生が認められ,昭和 52 年からは県下全域で発生するようになった。
チビクロバネ キノコバエ	昭和 52 年 1 月	小松島市 和田島町	ハウスキュウリ	未熟のおが屑堆肥が多量(2t/a)に施用されたところに被害がみられた。昭和 53 年 3 月には阿南市にも発生した。昭和 54 年からは,おが屑堆肥の施用を少なくし,小発生となった。
ハクサイ根くびれ病	昭和 52 年 11 月	藍住町	ハクサイ	ハクサイ産地の一部圃場で生育不良,倒伏株がみられ,根くびれ病であることが判明した。
ダイコン萎黄病	昭和 38 年 12 月	鳴門市	ダイコン	20a に発生,徹底した防除により翌年は発生がみられなかった。昭和 53 年 3 月には鴨島町の春どりダイコン約 1ha に発生,その後,三加茂町水ノ丸の高冷地のダイコンでも 3ha に発生した。
さめ肌状横縞症	昭和 53 年	鳴門市	サツマイモ	収穫された塊根にさめ肌状横縞が発生し,品質が低下した。
円形黒斑病	昭和 53 年		ニンジン	根部にフザリウム菌による円形黒斑が発生し,品質が低下した。
葉ぶるい症	昭和 53 年		イブキ	枝葉に梢枯菌による葉ぶるい症状が発生し,品質が低下した。
イチゴ萎黄病	昭和 54 年 11 月	阿波町	イチゴ	芳玉に変わって宝交早生を導入した阿波郡の一部農家で発生し,以後,県内で小発生している。
トマト根腐れ萎ちょう	昭和 54 年 11 月	土成町	トマト	国府・石井両町の促成トマト栽培農家核 1 戸で 4 月下旬頃から黄化,萎凋が発生,50%近い株が枯死した。
アメリカシロヒトリ	昭和 55 年 8 月	徳島市	タイワンフウ	街路樹(タイワンフウ)5 本に発生。
ミナミキイロアザミウマ	昭和 56 年 10 月	穴喰町	ナス(施設) サツマイモ (露地)	同年中には牟岐町以南・鴨島町以西の露地・施設で発生を認めた。昭和 57 年 10 月には県内全域で発生した。
イネミズゾウムシ	昭和 57 年 6 月 10 日	阿南市学原町	イ ネ	学原の他,福井町・津ノ峰町の計 37.2ha で発生を確認した。
シュンギクべと病	昭和 57 年 12 月	国府町	シュンギク	昭和 57 年に本病と確認されたが,症状は以前からみられており,県西部にも発生していることが明らかになった。